

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った事業所運営を行うために法人の理念を掲示している。職員間で確認し、ケアを行う際に役立っている。	法人の理念に沿って特にホームとしては「利用者の持てる力を発揮できるように」・「尊厳と自己決定を尊重して一人ひとりのライフスタイルを支援する」というケアに取り組んでいる。スタッフルームに理念を掲示し、互いに確認しあいながら日々のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日のごみ捨てや買い物ではご近所の方や地域住民の方との世間話がある。創立祭や納涼祭では地域住民を招き、交流する機会となっている。	自治会に加入し区からの情報は頂いている。ホームで行う創立祭や納涼祭を地域の人々にお知らせしており交流を深める良い機会となっている。地区の運動会・敬老会に利用者が見学・参加し顔見知りとなっているので、散歩や買い物に出かけると地域の方から気軽に声がけをしていただける関係となっている。高校生、短大生の実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2クール岡谷地域にて「脳しゃっきりコース」という名で、認知症の理解、支援方法、予防についての教室を地域住民へ向けて実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年4回実施しており、地域住民、利用者様ご家族、役場職員、相談員を施設へ招き、施設の取り組み報告を伝え、頂いた意見はサービスの見直しに役立っている。	3ヶ月に1回開催し、家族、区長、民生委員、介護相談員、市役所介護福祉課職員等が出席している。利用者の現状や行事等の報告をし活発に意見交換がされており、検討事項はサービス向上に役立っている。出席できなかった家族には議事録を郵送し、職員には回覧し情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岡谷市役所の担当職員と運営推進会議、岡谷市のグループホーム連絡協議会等で連絡を取り合いながら、情報共有し協力を求めている。	市の声がけによりグループホーム連絡協議会が年4回開かれ、情報交換とともに今後の在り方についての意見交換の場とし、協力関係を築いている。市から委託を受けてホーム職員が介護予防教室「脳しゃっきり教室」の講師となり認知症予防に関わっている。毎月1～2回、介護相談員2名が来訪し利用者と話をして何か要望があれば内容を伝えてくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会を中心にエリア全体で身体拘束をしないケアについての勉強会をする機会を作っている。	身体拘束に関する研修は法人として実施している。ホームとしても拘束しないケアに取り組み、玄関は施錠されていない。外出傾向の強い方には職員が話を聞きながら一緒に広いテラスを散歩したり、花壇の手入れをしたりと利用者寄り添ったケアをしている。夜間、転倒防止のために家族了解のもと居室ドアに鈴をつけている方がいる。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための勉強会を実施し、全職員に参加をしてもらい考える機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中にも成年後見制度を利用されている方がおり、定期的な金銭確認等支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時から年月が経っている方へはプラン提示等の際に利用者様の状態に合わせて利用基準等の再説明をさせて頂いている。税金引き上げの際は料金の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族アンケート調査を行い、利用者様やご家族の意見・要望を取り入れたサービスをできるように努めている。	ほとんどの利用者が自分の意見を伝えられる。職員の声かけで「もうちょっと外に行きたい」、「天気がいいから散歩に行きたい」などつぶやきも含めて話された言葉は介護記録に残し職員で共有している。家族の来訪は週1回から2ヶ月に1回あり、その時に意見や要望を伺うようにしている。年2回、家族への満足度調査があり、その結果も参考にしてケアに活かせるようにフロア会議で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場アンケート、(業務内容、ポイントケア、ストレスチェック等)を実施し運営に反映できるよう努めている。	定例のフロア会議、カンファレンスや毎日の申し送りで意見交換を行っている。人事考課制度やストレスチェック等の職場アンケートも実施している。職員と管理者との定期的な面談があり、話を聞くことで課題を解決しながら意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司からの面接や採用条件の見直しを行いながら、職員個々の意見を汲み取るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の毎月の研修・勉強会を数日間日付を設けて開催し参加できる環境を心がけている。外部研修へも認知症に関する内容を中心に年間計画を立て参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡谷市内のグループホーム連合会議へ参加し、市内のGHと役場での情報共有、地域へ認知症の理解を深めてもらうための活動を行っている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の中でご本人、ご家族の思いを聞き取り、サービス内容に活かしている。普段の関わりの中でもご本人の言葉を聞き取り、ケアへ取り入れられるよう職員間で共有している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接、初期カンファレンスの場で要望等聞き取りを行い、介護計画書へ意見を反映させながら関係作りをおこなっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態変化に応じてカンファレンスを開催しながらであるが、グループホームでの生活が困難になった場合は特養や老健等のサービス利用も行える事を説明させて頂いている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除等の家事を職員だけでなく入居者と一緒に行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や定期受診の際には家族水入らずで過ごせるよう配慮を行っている。ご本人の誕生日には家族交流会を行い、家族と過ごす時間を持てるよう活動している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等の面会も可能である説明を事前実施しており、面会があった際にはゆっくり過ごして頂けるように環境の配慮を行っている。	家族から面会の了解を受けている友人や知人の来訪がある。来訪時に良い表情をされる方が多いのでゆっくり話ができるようお茶を出すなど職員が配慮している。近くのスーパーへの買物や地域の味噌屋さんでの味噌詰め放題のイベントに出掛け、店員とも既に馴染みの関係が出来ており互いに笑顔で声を掛け合っている。利用者が希望する馴染みの場所(諏訪湖周辺)にもできるだけ出掛けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方や自分から他者へ話しかける様子がみられない方等、職員が間に入り関わるよう心掛けている。家事や行事を通して関わりを持てる機会を取り入れている。			

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、入院された方で退院後の行き先についてフォローをする等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り調査だけでなく、ご本人の思いや希望を汲み取れるよう、ふとつぶやかれた言葉の聞き取りの記録、検証しケアに活かせるようにしている。	ほとんどの利用者が自分の思いを言葉にして表現できる。日常の中での利用者のつぶやきをそのまま記録し、職員間で情報を共有しながら対応している。自己決定については決めつけないで利用者に複数の選択肢を示して選べるように働きかけている。必ず、一人ひとりの利用者に声を掛けながら時間を十分取ることで本人の思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族、関連機関への聞き取りを行いながらプロフィールのシートを作成し職員間で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく馴染みの生活を送って頂けるよう、環境整備やアセスメントシートの活用をしながらケアに活かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、普段のご本人の様子を踏まえ他職員の意見を反映した上でご本人とご家族と話し合いを行うようにしている。	一人の職員が2名の利用者を担当している。利用者の日々の状況や課題を把握して担当者が中心となりカンファレンスを行っている。家族の意向を伺い全職員で検討してアセスメントもしている。介護計画の見直しは6ヶ月に1回実施しているが、状態に変化がある時はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を元に職員間で毎日申し送りをを行い、情報共有を行っている。担当者を中心に意見を吸い上げてアセスメントの作成、介護計画書への反映に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時や電話連絡で伝えられた要望内容など、お試し期間を定めてケアへ反映し様子観察を行うよう支援している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の買い物で地域食材を購入したり、毎月1回ある近所の味噌屋さんでのつめ放題へ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居中も利用者個々のかかりつけ医へ受診を継続できるよう支援し、体調不良など体調変化があった際には連絡し相談するようにしている。	ホーム利用前からのかかりつけ医がほとんどで、受診付き添いは家族が行っている。緊急時の受診はホームで対応している。訪問看護ステーションと契約して毎週火曜日に看護師が来訪し健康チェックや健康相談が行われ、24時間の対応が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に岡谷病院の訪問看護ステーションより訪問してもらい、利用者の健康状態の把握に努めている。昼夜問わず、体調に変化があった際には相談する体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院である岡谷病院、釜口医院へ日頃より情報交換、相談をおこないながら、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合の指針について説明を行っている。状態変化に応じて事業所で行える支援方法を協議し、区分変更や特養申請等も行いながらサービス変更の準備を実施していくようにしている。	法人グループホームとしては看取りは実施しない方針である。契約時に重度化した場合の指針について説明理解されているが、体調の変化に合わせて家族や主治医、職員と話し合い医療機関や法人内サービス(特別養護老人ホーム、老人保健施設等)に移れるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修に全職員が参加し、AEDの使用法の勉強会を定期的実施する等、緊急時のマニュアルに沿った対応ができるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回全館合同で避難訓練を実施し、非常事態に備えて行うべき手順、誘導ルートの把握を行っている。	年2回防災訓練を実施している。火災や地震を想定して、訓練のうちの1回は消防署の指導を仰ぎ、通報訓練や避難訓練についてアドバイスを受けている。利用者もタオルをかぶって避難している。職員の緊急連絡網の確認も行っているが、夜間についてはマニュアルのみで今後検討していく予定である。また、本年度、近隣住民による協力がなかったため、今後、協力体制を整えていきたいという意向も持っている。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー研修を定期的実施し、利用者へ目線を合わせた介助や言葉使いに配慮をした介護をおこなうよう教育している。	法人としての接遇マナー研修が年1~2回あり、マナーチェックで自己採点をしている。利用者の目線に合わせて言葉遣いにも気をつけ、人格を尊重した対応に心がけている。居室に入る時は必ずノックを3回して「失礼します」と声掛けしてからプライバシー空間に入るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のレクリエーションや交流を通して利用者自身に選択して頂く機会を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや入浴のタイミングなど利用者自身に選択して頂いている。ご希望に沿ってケアを提供できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は外行きの洋服を着ていただくことや、化粧をして頂くなど、個々に合わせた支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の際に食材を選んでいただいたり、利用者様の希望に沿ったメニューも取り入れながら提供を行っている。	刻み食で一部介助の利用者がいるが、多くの方は普通食を自力で摂取されている。メニューは法人エリアのグループホームとして決めており、食材は毎日、利用者と職員とで買い物に出掛けている。調理の準備から後片付けまで、持てる力に応じて職員と共に行っている。予定の食事時刻がずれてもあわてずに利用者の力を発揮していただいている。近所からの差し入れがあったり、ホームでもテラスでの園芸を行っている。利用者の誕生月には家族も一緒に誕生日のお祝いの食事を作り、互いに料理を楽しみながら交流できるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取も飲みやすい内容へ変更したり、食器の置き場所を工夫しながら声かけを行い、栄養摂取をして頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけすることで歯の内側も磨ける方や、マウスウォッシュも併用し口臭予防する方等個々にケア内容を把握し支援している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツゼロの取り組みを行っており、リハビリパンツから布パンツとパットの使用への切替や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	ほとんどの方が、声掛けのみでトイレでの排泄ができている。若干名の方は毎回、介助が必要であるが、布パンツとパットで対応している。安心してほしいという本人の希望でリハビリパンツを使用している方もいる。排泄に関する研修を受け、利用者の排泄パターンを把握してトイレでの排泄ができるように支援している。トイレの場所表示はわかりやすいが、それだけでなく利用者に合わせて居室から出てきた時に、目につく位置にも表示があり工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握しながら、食物繊維や水分摂取状況の見直しを行っている。訪問看護師に相談しながら腸の動きの把握にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日やタイミングは固定しておらず、午前と午後に入浴を実施しており、利用者の気分に合わせて選択して頂ける支援を行うよう心掛けている。	週3日は利用者の気分に合わせて午前か午後に入浴している。全介助の方が若干名おり、他の方は一部介助で入浴されている。浴槽内に階段があるので足の動きが悪い時はシャワー浴と足浴で対応している。入浴を拒否される方については職員や時間を変えるなどの工夫をしているが、比較的午前中のほうが入りやすいという。家族が定期的に温泉に連れ出して楽しめる利用者がいるが、ホーム全体で温泉に出かけることは難しい状況となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度・湿度調整、光や音等の環境配慮をおこないながら、利用者へお聞きし安心して過ごしていただけるよう支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員を中心に他職員への情報共有を行いながら利用者個々の現状把握に努めている。服薬マニュアルテストを実施し、日々のケアを見直す機会を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の関心や得意分野を活かした役割、できること探しをおこないながら、趣味を活かした生活を行えるよう支援をおこなっている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物支援や、天候の良い日やドライブに出掛けるなどの活動を行っている。旅行や行事の際には家族へも参加を促し、一緒に過ごしていただく時間を設けられるよう支援している。	半数の利用者は自力歩行ができ、車いす、シルバーカーや杖使用の方がいる。近所の散歩やゴミ捨てに出かけたり、毎日、食材買い出しに近くのスーパーまで交代で出かけている。季節の行事として桜・つつじの花見、諏訪湖周辺のドライブなども楽しませている。テラスが中庭になっていて、陽当たりも良くベンチが置かれて外気浴が楽しめ、気分転換を図る絶好の場所となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	鍵付のタンスへしまう、手持ちのカバンで管理されるなど管理方法は様々だが、買い物へ出かけた際等使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があった際には、電話ができることをお伝えし対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温チェック表を用いながらの温度管理、天候に合わせてカーテンの開け閉めや換気を実施している。	食堂兼ホールは明るく、調理台やテーブルも使い勝手よく配置されている。壁には利用者の折り紙作品や大きめの時計、カレンダーなどが複数掛けられていて、時間や日付の確認がしやすくなっている。1日の流れが掲示され、生活の基本となる3食の食事時間も記されている。ソファが3ヶ所に置かれ、仲良く腰かけて話し込んでいる利用者の姿が見られた。陽当たりの良いテラスは中庭として活用され、廊下には観葉植物が置かれており気の休まるような環境づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後など、ご希望により共有スペースのソファや個別の居室で過ごせるよう、声かけや誘導を行うよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持参して頂き、居室内の装飾や家具の位置等お聞きしながら、居心地の良い環境で過ごしていただけるよう配慮を行っている。	居室の表札には各利用者の好きな花の写真が添えられている。居室内には洗面所が設置され、エアコンによる温度管理がされている。使い慣れたタンスやハンガーラックが持ち込まれ、好みのベッドやテレビも置かれている。居室入り口上部には備え付けの収納戸棚があり、持ち物が整理されて利用者の居心地の良さに配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札は個々に好きな花を取り入れて掲示しており、下駄箱への名前の明記や物品の用意など個々に合わせた自立へ向けたケアを行えるよう支援を行っている。		